

「私なりの生き方再発見」講座を開催しました

性別や年齢に関わらず、働く人すべてがライフステージごとの事情(育児・介護・社会活動等)に合わせて「仕事」と「仕事以外の自分の生活(家庭・地域・学習等)」の時間を上手に組み合わせ、バランスのとれた多様な生き方を実現する、ワーク・ライフ・バランスなどについて学び、自分なりの生き方について考えることを目的に開催しました。



五十嵐 健太郎さん

【講座Ⅰのカリキュラム】すべて19:00~20:30

- ① 11月8日(水) スクリーンの向こう側から見えてくるもの
(講師:いわき明星大学 助教授 菊池真弓)
- ② 11月15日(水) 平成、オトコの生きる道~十人十色の生き方がし~
(講師:福島県男女共生センター 岡部貴敏)
- ③ 11月22日(水) ワーク・ライフ・バランス~法律・制度はあるけれど~
(講師:福島県教育庁 天野和彦)

受講者 五十嵐さんの感想

親との同居が一般的だった頃は女性たちで家を守るのが主でしたが、現在は核家族化が進み、男女が協力して家事をする必要性が高まっています。また、少子化や団塊世代の大量退職などで労働人口が減少する中、企業もより多くの女性が社会で活躍するのを望む傾向にあります。

一人ひとりの女性が、家庭だけでなく社会においても重要な役割を担う必然性がさらに高まっている今、過去の常識やルールによって女性というだけで差別や不平等を受け、活躍の場が損なわれることがないよう、社会のあり方が見直されてきています。しかし、それと同時に「必要のない説得力のない無意味なモノ」に対しても、男女平等を求めてしまう危険もあります。

今回の講座では、「私なりの生き方再発見」をテーマに、計3回毎回異なる個性を持った講師の先生方の話を聞き、他の受講者と意見を発言し合うことで、男女平等がどうあるべきかを踏まえた上で、自分なりの生き方を発見することができました。

【講座Ⅱのカリキュラム】すべて午前と午後の2回ずつ開催

- ① 1月11日(木) 21世紀、新しい働き方・生き方を求めて~ライフデザイン編~
(講師:東日本国際大学福祉環境学部講師 後藤 宣代)
- ② 1月18日(木) 21世紀、新しい働き方・生き方を求めて~チャレンジ編~
(講師:東日本国際大学福祉環境学部講師 後藤 宣代)
- ③ 1月25日(木) 未来日記 ~明日の自分が見えてくる~
(講師:福島県会津地方振興局企画商工部 本田 良子)

出産や育児・介護のために一旦家庭に入った方や職場を定年・早期退職した方が、これから自分はどうかしたいのか、どんなふうに関わっていくのか、自分の働き方や生き方を考え、再発見する目的で開催しました。

受講者 酒井さんの感想

私は、公立保育所に40年勤務し、2年前退職。自分のこれから…を考えるために週2日半、働くチャンスを与えていただき、その任期もあとわずかとなりました。

この間、ヘルパー資格、キャップスペシャリスト資格を取得しましたが、「どうしたら社会とかかわっていけるだろうか」と不安でした。そんな時講座受講で、21世紀の厳しい現実、雇用形態、格差問題など勉強して、「社会とかかわり、自立した人間として生きてみたい」という気持ちが強くなりました。

現在の社会情勢やニュースを目にして子育ての大切さを考えた時、「キャリアを活かし、若いお父さんお母さんの応援団としての道」が、私に与えられた生き方ではないだろうかと気付かせていただきました。

そして今、前向きにその準備を進めているところです。私の不安、迷いを除き、背中を「ポン」と押してくださった講師の先生方、そしてこの機会を与えてくださった男女共同参画センターの皆様感謝の気持ちでいっぱいです。



酒井 ヒロ子さん

平成18年度男女共生グローバルサポーター事業

「女性リーダーコース」* いわき市の女性2人が参加

*男女共同参画社会の形成を目指し、海外における女性問題や社会システム等に関する視察を行うことにより、地域や団体において積極的に活動できる国際的視野を持った女性リーダーの育成を図る目的で行っている事業(主催:福島県 実施主体:福島県男女共生センター)

イギリスへ 飯間 香保子さん(帰国報告書より)

世界に先駆けて、二つの雇用平等法(同一賃金と性差別禁止法)が成立した国であり、女性が多くの分野に進出しているが、技術職や管理職部門への進出は僅かである。しかし、男女共同参画社会への歩みは確実に進められており、社会全体にその鼓動が感じられるが、最大の推進力は女性自身の自己啓発と自己実現であり、男女の相互理解と協力である。これからの日本の未来は、男女が協力しあい、知恵と力を出し合い進んでいく努力が今まで以上に必要である。故に自己の経験とこの研修で得たものを様々な機会に伝達・啓発し、実践していきたい。

アメリカへ 吉田 恭子さん(帰国報告書より)

世の中を変えるには、自分がエンパワメントしたら、次はその輪を仲間へ広げ、最終的には女性ももっともっと意思決定の場へ出る必要があると確信した。過去の固定概念を払拭し、21世紀の新しい男女の生き方を構築しなければならないことをより多くの人に理解してほしい。

今回で見聞した貴重な体験を多くの方に聞いて頂き、積極的に女性の自立、レベルアップを図る為の啓発活動を行っていききたい。また働く女性として、企業や経済界にもワーク・ライフ・バランスの視点から働きかけを行っていききたいと考えている。